

優良賞

愛は力になる

兀 萍
W U P I N G

中国の四川省といえば、我々がまず目に浮かべるのは可愛いパンダ、美味しい四川料理、美しい風景です。でも去年の四川汶川大地震以来、四川という文字を見ると、すぐ「地震」と連想されます。

2008年5月12日は四川の人々及び中国の人々にとって、とても恐ろしい日でした。この震災により、多くの方々がなくなられ、多くの子供が孤児になり、そして、多くの親が子供を失いました。

その日、私は通常通りに仕事をしてから寮に帰ってテレビをつけたら、いきなりBSテレビで…「中国四川省で大地震が発生しました」というトップニュースが目に映りました。画面からは泣いている声や叫び声、建物を揺れ動かす音がして、瞬く間に「天府之国」といわれている四川汶川の廃墟となった映像が繰り返し放送されていました。テレビの前に立つ私は呆然としていました。夜、私は何回も家族に電話をしましたが、電話がかかりません。私の古里、陝西省は大丈夫かな、同時に日本に来た四川省の友達の家は大丈夫かな、私は心配でたまりませんでした。

翌日の朝、会社の小崎さんは私達を集め、「皆さん先ほど会社が四川省の成都と陝西省の西安の社長と連絡を取りました。成都市内は大丈夫で西安も被害はないということです。ただ家族

のことを心配していると思いますので、本人から家族に連絡を取っていただいて、連絡が取れないようであれば、組合まで連絡して下さい。こちらもできる限りのことをします」といいました。私達は小崎さんの話を聞いて、ほっと息をつきました。

それから、また断続的に余震が有り、私達は毎日被災地の情報に注目していました。5月15日、日本は31名の応援チームを派遣し、日本国民は日本赤十字協会や日中友好協会などを通して沢山の義援金、物資などを震源地に送りました。組合の谷口理事長は募金箱を設置し、皆で募金しました。小崎さんは私達の不安な気持ちを慰めるために、日本の歴史的な変化のこと、特に、阪神大震災で日本人はどのように困難を乗り越えたかという事を沢山話して下さいました。会社の人達は「家族は大丈夫？親戚、友達は大丈夫？頑張ってね」と暖かい声を掛けて、私達は思わず感謝の涙が出ました。

中国には「一方有難、八方支援」という言葉があります。日本の救助隊が一番に現地に入って、中国を助けて下さった事は中国人の私にとって、一生忘れられないと思います。

地震は無情、人間は有情。我々は世界の人々の愛を受けながら頑張って行きます。

今、世界的な不況でこれからの道はもっと険しいかもしれません。でも、私々は強い力を持って厳しい明日を迎えます。我々の世界は愛が溢れていますから。愛はずっとそばにいるね！

| | |
|-------|------------------|
| 区 分 | 技能実習生 |
| 国 籍 | 中国 |
| 職 種 | 電子機器組立て |
| 受入れ企業 | 株式会社リンク |
| 受入れ団体 | エレクトロ・ネットワーク協同組合 |